



感染症週報



小笠原での流行状況

第33週（8月10日 から 8月16日まで）

父島 感染性胃腸炎、インフルエンザの報告がありました。

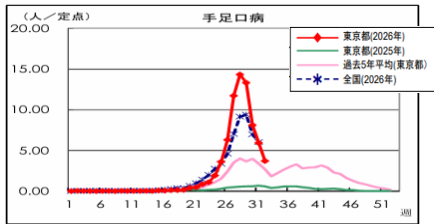
母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

東京都全体での流行状況

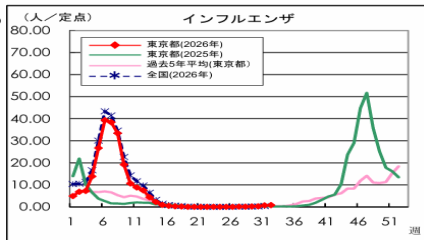
第32週（8月3日～8月9日）

【今週の注目される
定点把握対象疾患】

- 手足口病の定点当たり報告数は3.71で、28週の14.33をピークに減少してきていますが、警戒レベルは続いています。



- インフルエンザの定点当たり報告数は0.84と先週より増加しています。流行開始の目安となる定点当たり報告数1.0を、6保健所が超えています。



※ 5例以上発生時に実数報告としています

災害と感染症②



先週に引き続き、災害時に気をつけたい感染症についてです。

【被災した家屋で】

清掃作業をされる方へ

清掃作業時に注意してください

① 傷口からの感染



予防策 ・丈夫な手袋や底の厚い靴などを着用
・長袖など肌の見えない服装を着用

ケガをした場合

傷口を流水で洗浄し、消毒しましょう。
特に深い傷や汚れた傷は破傷風[※]になる場合があるため、
医師に相談をしましょう。

※ 破傷風は傷口に破傷風菌が入り込んでおこる感染症で、医療機関で適切な治療を行わないと死亡することもある病気です。

② 土ほりへの対応

土ほりが目に入って結膜炎になったり、口から入ってのどや肺に炎症を起こすこともありますので、目や口を保護することが重要です。

予防策 ・ゴーグル・マスクを着用
・作業後には手洗い

目に異物が入った場合

目を洗浄しても、充血が起きている場合などは医師に相談をしましょう。



傷口からの感染症は、すり傷や切り傷などの小さな皮膚の傷から細菌が侵入して起こります。

主な症状は患部の赤み、腫れ、強い痛み、熱感などで、重症化すると敗血症や壊死を引き起こすおそれがあります。ケガをしたら傷口を速やかに流水で洗浄し、可能なら消毒しましょう。

【傷口からの感染で発症する主な感染症】

状態・症状・感染症名	主な原因菌	特徴的な症状
化膿・膿瘍	黄色ブドウ球菌 など	傷口とその周辺の赤み、腫れ、痛みの増強、膿（うみ）が出る
蜂窩織炎	溶血性レンサ球菌、黄色ブドウ球菌	皮膚の深い部分の急激な赤み・腫れ、強い熱感、触ると激しく痛む
破傷風	破傷風菌（土壌中など）	口が開けにくい、首や手足の筋肉のこわばり、全身のけいれん
劇症型溶連菌感染症	A群溶血性レンサ球菌	非常に急激な激痛と腫れ、高熱、めまい、意識障害（ショック状態）
壊死性筋膜炎	複数の細菌（ヒブリオ・パルニフィカス など）	傷の見た目以上の猛烈な痛み、皮膚の変色（紫～黒色）、水ぶくれ



習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い



東京都島しょ保健所小笠原出張所